

令和2年9月4日

嬉野市議会

議長 田中政司 様

文教福祉常任委員会

委員長 森田明彦

## 文教福祉常任委員会報告書

令和2年6月定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会  
会議規則第107条の規定により報告する。

付託事件名

### 新型コロナウイルス感染症関連について

#### 調査の理由

民生委員児童委員の活動は2017年度に制度創設100周年を迎えられた。

戦後、社会情勢が大きく変化した今も「住民に寄り添いながら、住民の立場に立って活動を行う」という本質は変わらずとも、コロナ禍の今、活動も柔軟な対応が求められている。

委員会では、地域福祉推進の幅広い活動を支えておられる塩田・嬉野民生委員児童委員協議会の方々との意見交換を行い、感染症対策を含めた現況と今後の活動の在り方について調査を行った。

#### 調査の概要

- 1、「新型コロナウイルス感染症」の影響および関連する相談事案等について
- 2、その他一般的な活動での問題点について

調査日 令和2年8月11日（火）13時30分～15時00分

場 所 うれしの市民センター会議室

対応者 塩田町民生委員児童委員協議会 諸岡 博子 会長  
杉谷 雅博 氏  
西村 貴美子 氏  
嬉野町民生委員児童委員協議会 古河 タカ子 会長  
宮崎 京子 氏  
小野 千代子 氏  
宮崎 典子 氏

嬉野市市民福祉部 福祉課副課長 馬場 恵 氏  
子育て未来課長 筒井 八重美 氏  
子育て未来課主任 中野 哲也 氏

## 意見交換での内容

### 1、「新型コロナウイルス感染症」の影響および関連する相談事案等について

○全国民生委員児童委員連合会から感染症予防のため訪問を控えるよう通達があり、現況ではできるだけ訪問をしないようにしているとの事。

そのため、電話で連絡を取っているが、電話では「元気ですよ」と話してくれるだけで、顔の様子や生活の実情は判りにくい。

訪問し、見て、聞いて、話しをして確認しないといけないので、今回の「新型コロナウイルス感染症」の影響は、活動そのものの大きな障壁になっている。

○国の「特別定額給付金」受給については、それぞれのお子さんや親族の方の手助けで申請手続きをされた方がほとんどであったが、高齢者が手続きをする際に不便な点は、通帳のコピーを準備するだけでも難しいということで、申請手続きはお年寄りだけのご家族は大変だと感じた。

○新型コロナウイルスに特に敏感になっておられ、買い物には人が少ない時間帯に行かれていることも分かった。

### 2、その他一般的な活動での問題点について

○民生委員の行動範囲や責任範囲がわかりにくく、独自の判断になってしまうことが悩みである。

○救急車で病院まで付き添ったとき、MRI検査時の同意書への記入を求められ躊躇しながら署名したこともある。

※（市民福祉部より、同意書への署名は責任範囲では無いので必要ないとの説明あり）

○責任を負わないように気を付けているが、身寄りのない方が入院する際などに、民生委員を連絡先として病院に告げられることもあり呼ばれることがある。

○嬉野町温泉区では顔見知りでない高齢者がいらっしゃるので関係性を築くのが大変である。

○掃除などの手伝いをされる民生委員もおられるが、そういった場合は人手のサポートが必要と感じる。

○愛の一声運動は民生委員児童委員の活動において、健康状態等が確認できる点で非常に良い制度である。

○民生委員児童委員をして初めて地域の実情がよくわかる。

○子どもたちと接することで子どもたちの成長を見ることができ嬉しい。

○民生委員児童委員活動の中で感謝されることがあるが、ありがたくやりがいになる。

#### 委員会の意見

限られた時間内でありましたが、活動現場の生の声を聞くことが出来ました。特に、新型コロナウイルス感染症の影響で訪問自粛の要請を受け、接して会うという基本的な活動の大きな障壁になっていることから、対応を電話での健康確認や家の周りから洗濯物の状況確認、また、対象者の隣近所の方への見守りの依頼など様々な工夫もされていて、責任感の強さがうかがえた。

また、市内でも地域によって住んでいる人達の特性も様々であり、各委員の方々で対応に違いがあり、悩まれている実態もあることから、活動全般に関し、委員の方が一人で悩むことのないように、当市の現状に即したわかりやすい活動の指針をつくり、また、市役所全体でのサポート体制があることなども十分な告知をしていただきたい。

これからの民生委員児童委員の活動として、より一層、行政や医療関係機関との連携が必要であり、民生委員児童委員に限らず地域住民の誰もが支えあう共生社会の実現を目指すべきである。